

# コミュニティカフェによる

## 居場所づくり

櫻井高志

### コミュニティカフェとは

コミュニティカフェ（以下、コミカフェ）とは地域の中の「居場所」や「たまり場」になっているところの総称であり、サードプレイスのひとつである。今年度、弊社では豊田市保見地域において、コミカフェの開設講座を企画・運営させていた。くとともに、県内の事例も多数視察する機会を得た。現場で感じたコミカフェの可能性について考えた。

### コミュニティカフェ開設講座

保見地域は豊田市郊外に位置する大規模団地と既存集落からなる地域である。少子化や高齢化、地域活動の形骸化などが問題視される中、地域コミュニティを見直すために、改めて住民同士がつながるきっかけとなる居場所づくりに取り組みようとしている。その手法として注目したのがコミカフェである。

昨年度行った全世帯対象のアンケートでは、年代問わず約六割の人が居場所の必要性を感じ、コミカフェへの利用ニーズも高かった。それを受けて、今年度秋、運営希望者向

けに「コミュニティカフェ開設講座」を開催した。座学、視察、運営体験等を含めた全六回であり、約二十名の男女が参加した。運営体験では、公民館やお寺を会場として、本格開設に向けたお試しの模擬カフェを

四か所で実施した。準備や周知期間が短かったにも関わらず、当日には大勢の住民が集まり、笑顔でおしゃべりを楽しんだ。「こんな場所がほしかった」など継続を望む声も多くなり、住民の関心は非常に高いことがわかった。手ごたえを感じた受講者からは、近いうちに本格開設したいとのうれしい意向も出ている。

基本はおしゃべりの場なのだが、それ以外に地域の人が講師になったり、地域の団体がショーを披露したりといった企画を加えたコミカフェもあり、地域で活動している人や団体の活躍の場にもなっていた。

### コミュニティカフェから地域活動へ

豊橋市「天伯団地ひだまりの会」は、居場所づくりとして公民館で月二回茶話会を開いており、近所の高齢者が集まる。特徴的なのは、茶話



公民館で開催した模擬カフェの風景。どのテーブルも笑顔が絶えない。



日ごろの裁縫の腕を発揮して、安否確認用の旗をつくるコミカフェ参加者。



コミカフェに行くといろいろな手作り看板が迎えてくれてうれしい。

会での参加者との会話を発端に、手芸やカラオケ教室などのサークル

活動が生まれ、独立したことである。また、地域の防災活動のために、有事の際に各家庭の安否確認に使う

目印の旗をコミカフェ参加者が手作りしている。参加者のやる気や関心をうまく吸い上げて新たな地域活動に育てている。参加者は居場所とともに地域貢献へのやりがいも得ている。運営者の手腕によることも大きい。コミカフェの可能性を感じさせてくれる事例である。

同様の事例が日進市「御岳ほっとカフェ」でもある。コミカフェをきっかけに、「ラジオ体操部」「通学見守り隊部」「映画鑑賞会部」など十五もの部会が生まれ、それぞれに活動している。活動分野が多岐に渡るため、住民も自分の好きな活動に参加する中で、居場所や地域とのつな

がりを得ることができている。

### コミュニティカフェの可能性

コミカフェには居場所、人とのつながりをつくる以上の可能性がある。それは地域活動の源泉になりうるということである。住民や活動団体などそれぞれの関心事や思いをうまく引き出し、組み合わせることで、地域の活動をつくり、広げることができるのだ。

しかし、まずは何よりも居心地の良い居場所をつくり、住民を集め、それを続けていくことである。今回、目にしたコミカフェはどれも参加者の笑顔であふれていた。運営者も立ち上げや継続の苦労はあるのだろうが、みんな笑顔だった。いい居場所には笑顔があふれている。そんな居場所をどんどん広げて、住みやすい地域を目指してもらいたい。